

第 44 回水疱症研究会

日 時 : 2023 年 1 月 13 日 (金) 12:00 ~ 17:25
(11:30 ~ ログイン可)
14 日 (土) 10:00 ~ 15:10

会 場 : 大田区産業プラザ PIO コンベンションホール
〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20
TEL : 03-3762-4151
(ハイブリッド開催)

会 長 : 石河 晃 (東邦大学医学部皮膚科学講座 教授)

事 務 局 : 東邦大学医学部皮膚科学講座内
第 44 回水疱症研究会事務局
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
E-mail : bullous44@gmail.com
TEL : 03-3762-4151 FAX : 03-3298-6066
事務局長 : 石井 健

ホームページ : <https://www.lab2.toho-u.ac.jp/44-bullous/>

研究会概要

1月13日(金)		
	時間	内容
ログイン開始	11:30~	
開会の辞(会長)	12:00~12:05	
セッションⅠ	12:05~12:45	演題 1-3
ランチョンセミナー	12:55~13:55	
セッションⅡ	14:05~15:10	演題 4-8
セッションⅢ	15:10~16:15	演題 9-13
イブニングセミナー	16:25~17:25	
1月14日(土)		
世話人会	9:30~9:50	会議室 F(6階)
セッションⅣ	10:00~11:05	演題 14-18
セッションⅤ	11:05~12:10	演題 19-23
ランチョンセミナーⅡ	12:20~13:20	
セッションⅥ	13:30~14:45	演題 24-29
総会	14:45~15:05	
閉会の辞(次回会長)	15:05~15:10	

ご挨拶

この度、第44回水疱症研究会を2023年1月13日(金)と14日(土)の両日、大田区産業プラザ PIO において開催させていただくことになり、一言ご挨拶申し上げます。

水疱症研究会は今回で44回目を迎える伝統ある研究会であり、水疱症研究・治療の進歩に多大なる貢献を果たして参りました。近年、水疱症は分子生物学的手法により病態が急速に解明され、それを利用した新たな治療法の開発についてもこの研究会が果たした役割は非常に大きいと思います。あえて学会とせず研究会の名称を守り参加者の自由な発表・活発な討論を促してきたことが、今日のような発展につながったのだと思います。今回の研究会でも最先端の情報を幅広く交換することにより病態解明、治療法がさらに進展することを祈念しております。

ご周知のように、3年前から始まった新型コロナウイルスの感染は未だに終息の見込みが立っておりません。今回の第44回水疱症研究会もハイブリッド開催といたします。しかし、今回の開催地である蒲田は羽田空港や品川駅にも近く、利便性の大変高い地域です。先生方におかれましては無理のない範囲で現地にお越し頂けることを、医局員一同願っております。

このような研究会を開催出来ますことは、東邦大学皮膚科学教室にとりまして、誠に光栄なことと存じます。本研究会に参加される先生方のお役に立ちますよう、事務局一同全力を尽くす所存でございます。

それでは多数の先生方の参加をお待ち申しあげております。

第44回水疱症研究会

会長 石河 晃

東邦大学医学部皮膚科学講座教授

I. 参加者へのご案内

- 参加費 一般 5,000 円 (下記振込先へお振込みください)
- 初期研修医 無料
- 参加申し込み希望を事務局宛に E-mailでお送りください。
- 参加者および演者には事務局から後日 Zoom のログインアドレスをメールにて送信いたします。
- 必ず氏名 (フリガナ)、所属、メールアドレス、領収書送り先の郵便番号と住所、電話番号を添えて、件名に「第 44 回水疱症研究会参加申込」と入れてください。折り返し招待メールを返信いたします。
- web 配信のキャプチャ・撮影・録音は固く禁止いたします。

【記載方法の詳細】

氏名 (フリガナ)、所属、メールアドレス、領収書送り先の郵便番号と住所、電話番号、件名に「第 44 回水疱症研究会参加申込」とご記載ください。

【参加希望送り先】

東邦大学医学部皮膚科学講座

TEL : 03-3762-4151 FAX : 03-3298-6066

事務局長 : 石井 健 宛

E-mail : bullous44@gmail.com

【振込先】

三菱 UFJ 銀行

蒲田支店 (店番号 117) 普通預金 1460695

口座名義 : 第 44 回 水疱症研究会 会長 石河 晃

(だいよんじゅうよんかい すいほうしょうけんきゅうかい かいちょう いしこう あきら)

お振込名義は参加者の氏名でお願い申し上げます。

振込期限 : 2023 年 1 月 20 日 (金)

II. 発表者へのご案内

オンラインでのご参加は、事前のご案内通りに ZOOM にアクセスして下さい

1. 発表時間：発表 7 分、討論 5 分です。時間厳守でお願いします。
2. 発表形式：口演発表はすべて PC による発表のみで、一面映写です。USB メモリ、PC 本体による発表が可能です。発表データは 1 時間前までに PC 受付までお持ち下さい。オンライン発表の先生方は、発表の当日 Zoom の画面共有を用いてご講演いただきます。会期前の講演データ登録は不要です。
3. 学術集会の発表における利益相反 (COI) 開示について「日本皮膚科学会 COI ガイドライン」のとおり、発表スライドの最初にて開示していただきますようお願いいたします。
4. 個人情報保護、研究に関して日本皮膚科学会 HP の「学会等における発表や講演に関する日本皮膚科学会の考え方」をご参照下さい。

III. 討論、追加発言される先生へ

1. 現地会場および Zoom ウェビナー下部の Q&A から質問することが可能です。
2. 各演題動画配信中から配信後に、質問したい演題番号・質問内容・質問者の所属・ご氏名とともにご記載ください。

IV. 座長の皆様へのごお願い

オンラインでのご参加は、事前のご案内通りに ZOOM にアクセスして下さい

1. ご担当セッションの開始 10 分前までに、会場にお越し下さい。
2. オンライン座長については 30 分前までにはご自身のパソコンの前で Zoom を起動しご入室してお待ち下さい。前セッションが実施されていても別ホストで次セッションは行いますので、前もってご入室することは可能です。
3. アナウンスはございませんので、定刻になりましたら座長挨拶から開始してください。

1 日目

1 月 13 日 (金) 12:05-12:45

【セッション I】

座長 須賀 康 (順天堂[浦安])

1. リファンピシンの中止により速やかに改善した難治性水疱性類天疱瘡の 1 例

○荒川遥<あらかわ はるか>、乙竹泰、高村直子 (横浜市大)、金岡美和 (横浜市大市民総合医療センター)、山口由衣 (横浜市大)

2. 好酸球増多出現から 2 年半後に水疱性類天疱瘡を発症した 1 例

○石津久実佳<いしづくみか>、新井優希、福井伶奈、山田朋子、出光俊郎、梅本尚可 (自治医大[さいたま])、渡辺珠美 (同 総合診療科)

3. 熱傷後に水疱性類天疱瘡を発症した一例

○知念瞳<ちねん ひとみ>、竹上智也、遠藤雄一郎、小亀敏明、神戸直智、梶島健治 (京都大)

1日目

【ランチョンセミナーI】

1月13日（金） 12：55-13:55

座長 氏家 英之（北海道大学）

共催 武田薬品工業株式会社

自己免疫性水疱症の治療 ～IVIG療法の役割～

久留米大学医学部皮膚科学教室

准教授 石井 文人

自己免疫性水疱症は、細胞間の接着に重要な役割をしている分子に対する自己抗体により、皮膚や粘膜に水疱、びらんを形成する一連の皮膚疾患である。その自己免疫性水疱症に対する治療については、天疱瘡及び類天疱瘡群のガイドラインが策定され治療アルゴリズムが示され、則した治療戦略を立てることができるようになり、現在、ステロイド内服を中心とした免疫抑制療法が中心的役割を担っている。またステロイド治療抵抗例では、免疫抑制薬、血漿交換療法、免疫グロブリン大量静注療法 (IVIG) 等を併用し、寛解を目指す治療戦略を立て、各治療法の特徴を理解し、患者の病態に合わせた併用療法の選択が重要である。本講演ではこれらの自己免疫性水疱症の治療法の現状について概説し、IVIG療法の意義についても考察する。

1日目

1月13日（金） 14:05-15:10

【セッション II】

座長 鶴田大輔（大阪公立大）

4. 免疫チェックポイント阻害薬使用後に生じた掌蹠に多発した表皮下水疱症の一例

○辻 宙<つじ ひろむ>、市來尚久、藤井建人、丹羽宏文、岩田浩明（岐阜大）

5. 当科において経験した免疫チェックポイント阻害薬投与に伴う水疱性類天疱瘡のまとめ

○入江絹子<いりえきぬこ>、高田満喜、遠藤麻衣、伊藤崇、石川真郷、本多皓、山本俊幸（福島医大）

6. ベンブロリズマブ中止が発症契機と考えられた乾癬合併DPP-4阻害薬関連水疱性類天疱瘡の1例

○中原由紀子<なかはらゆきこ>、宮脇秀徳、杉山聖子、青山祐美（川崎医大）

7. COVID-19を合併した重症水疱性類天疱瘡に血漿交換療法が著効した1例

○下山奈穂<しもやま なお>、根岸愛理、富樫結、池田信昭、松倉節子（済生会横浜南部病院）

8. 経過中に胃癌が発見され、手術待機中にクリプトコッカス髄膜炎を発症した水疱性類天疱瘡の1例

○吉田雅絵<よしだまさえ>、赤須里沙子（上尾中央総合病院）、徳永恵子、亀井聡、山野井貴彦、飯塚誉、田崎健太（同脳神経内科）、岡本信彦（同外科）、前田龍郎、原田和俊（東京医大）、出光俊郎（上尾中央総合病院）

1 日目

1 月 13 日 (金) 15 : 10-16:15

【セッション III】

座長 名嘉真 武國 (久留米大)

9. ナショナルデータベースを用いた水疱性類天疱瘡の疫学分析

○廣保翔<ひろやすしょう> (大阪公立大)、四宮佐恵、河合稜太、吉田寿子、新谷歩
(同医療統計学)、鶴田大輔 (大阪公立大)

10. ヒト表皮角化細胞株におけるBP180蛋白発現量の検討

○堤 真宏<つつみ まさひろ>、古賀浩嗣、Teye Kwesi、石井文人、名嘉真武國
(久留米大)

11. Ognatype単純型表皮水疱症 (EBS-Ogna) の1例

○武居慎吾<たけい しんご>、林 良太、勝見達也、安齋 理、酒井あかり (新潟大)、夏賀 健 (北海道大)、阿部理一郎 (新潟大)

12. リードスルー現象を利用した治療を試みた接合部型表皮水疱症の1例

○中條聡美<ちゅうじょうさとみ>、伊藤宗成、 神部正博、 延山嘉真、 朝比奈昭彦 (慈恵医大)、 赤坂英二郎、 中野 創 (弘前大)

13. 劣性栄養障害型表皮水疱症の孤発例

○頼母木まゆ美<たのもぎまゆみ> (横浜市大)、高村直子、乙竹泰、金岡美和 (横浜市大センター)、夏賀健 (北海道大学)、山口由衣 (横浜市大)

1日目

1月13日（金） 16:25-17:25

【イブニングセミナー】

座長 久保亮治（神戸大学）

共催 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
メンリッケヘルスケア株式会社

表皮水疱症の診療アップデート2023

北海道大学大学院医学研究院皮膚科学教室

准教授 夏賀 健

表皮水疱症は、表皮基底膜領域構成蛋白の先天的機能不全によって皮膚が脆弱となり、全身に水疱とびらんの出現を繰り返す疾患群である。過去30年余りの研究によって原因遺伝子群はほとんど同定された。しかしながら、基底膜領域構成蛋白の機能不全による表皮幹細胞や付属器並びに真皮の変化の病態解明と表皮水疱症の治療法開発は道半ばである。本講演では、表皮水疱症の最新の分類と近年報告された病型の紹介、被覆材の選択および復帰変異モザイクを利用した自家培養表皮移植に至るまでを概説する。

2日目

1月14日（土） 10:00-11:05

【セッションIV】

座長 大日輝記（香川大）

14. 皮膚癢痒症を疑っていた顆粒状C3皮膚症の1例

○梅本尚可<うめもと なおか>、山田朋子、出光俊郎（自治医科大[さいたま]）

15. 頭部皮疹の改善後に癬痕性脱毛と稗粒腫を生じたBrunsting-Perry型粘膜類天疱瘡の1例

○柿山真喜子<かきやま まきこ> 金子高英、高森建二、須賀 康（順天堂大[浦安]）、石井文人、名嘉眞武国（久留米大）

16. 水疱性類天疱瘡および線状IgA/IgG水疱性皮膚症と診断した一例

○加瀬 美咲<かせ みさき>（高知大）、石黒洋明（一宮皮フ科）、松本由美（高知記念病院）、石井文人、古賀浩嗣（久留米大）、中島喜美子（高知大）

17. 粘膜類天疱瘡および尋常性天疱瘡の口腔粘膜症状に対する局所外用療法と口腔衛生管理の効果

○河野通良<こうの みちよし>（東京歯科大市川）、青木理佐、栗原佑佳、三邊正樹、秋山友理恵、松浦信幸、野村武史（同歯科・口腔外科）、石井健（東京歯科大市川）

18. 天疱瘡および類天疱瘡の初期治療効果の評価における臨床症状スコアの有用性

○田中 諒<たなか りょう>、高橋勇人、天谷雅行、山上 淳（慶應大）

2日目

1月14日(土) 11:05-12:10

【セッションV】

座長 浅田秀夫(奈良県医大)

19. 再生不良性貧血に合併した線状IgA水疱性皮膚症の1例

○榊原絵美優<さかきはら えみゆ>、岩田昌史、大日輝記(香川大)

20. 母乳由来のIgAが原因と考えられたNeonatal linear IgA bullous dermatosisの1例

○橋本真哉<はしもと しんや>、福本 毅(神戸大)、吉田憲司(東邦大)、後藤 彩(神戸大)、堀之内智子、市川裕太、田中 悠(同小児科)、藤村順也(加古川中央病院小児科)、野津寛大(神戸大小児科)、石河 晃(東邦大)、久保亮治(神戸大)

21. アザチオプリン投与により脱毛と発熱性好中球減少症をきたした尋常性天疱瘡の1例: 当科におけるNUDT15遺伝子多型検査結果のまとめ

○片山 奨<かたやま しょう>、泉健太郎、葭本倫大、氏家韻欣、氏家英之(北海道大)

22. 特異なデスマグレイン抗体プロファイルを示した皮膚型尋常性天疱瘡の1例

○赤坂英二郎<あかさか えいじろう>、中野 創、澤村 大輔(弘前大)

23. 皮膚型尋常性天疱瘡の一例

○加藤寿香<かとう ひさか>、吉田憲司、篠原朋、今井杏里、横田真樹、伊藤 崇、石河 晃(東邦大)

2 日目

【ランチョンセミナーII】

1 月 14 日 (土) 12:20-13:20

座長 石井 健 (東京歯科大市川)

共催 一般社団法人日本血液製剤機構

水疱性類天疱瘡抗原と私

弘前大学大学院医学研究科皮膚科

教授 澤村 大輔

2023年の3月で弘前大学を退官することになりました。この水疱症研究会においては、たくさんの先生と交流することができ、また水疱症に関する多くの知識を勉強し、長い間お世話になりました。この場をかりて感謝申し上げます。

さて、私が研究を進めてきた過程で、節目となる時期でかならず出てくるのが水疱性類天疱瘡抗原でした。1989年に米国への留学においては、BP230とBP180クローニングの仕事、2001年に清水教授ところにお世話になったときはBP180に関するモデルマウス、弘前大学に移動してからはBP230に関するモデルマウス、などであります。あまり新しいことはありませんが、そのあたりを述べていきたいと思えます。

2日目

1月14日（土） 13:30-14:45

【セッションVI】

座長 高橋健造（琉球大）

24. ステロイド大量投与により腫瘍が自然消退した腫瘍随伴性天疱瘡の一例

○橋本匠<はしもと たくみ>（奈良医大）、大原裕志郎、大磯直毅（近畿大奈良病院）
橋本隆（大阪公立大）石井文人、古賀浩嗣（久留米大）

25. 皮膚症状がextranodal marginal zone B-cell lymphomaの診断契機となった腫瘍随伴性天疱瘡の1例

○黒澤 卓<くろさわ すぐる>、泉 健太郎、長田悠里、眞井翔子、宮澤 元、得地景子、今福恵輔（北海道大）、長井惇（北海道大血液内科）、石井文人、古賀浩嗣（久留米大）、氏家英之（北海道大）

26. シェーグレン症候群と扁平苔癬を合併した尋常性天疱瘡の1例

○山本美友貴<やまもと みゆき>、向山竜人、草野美沙希、伊藤崇、石川真郷、菊池信之、山本俊幸（福島医大）

27. 胸腺腫に合併した疱疹状天疱瘡の一例

○松梨智子<まつなし ともこ>、高橋 ちあき、朝倉 涼平、渡辺 絵美子（済生会横浜市東部）、古賀 浩嗣、石井 文人（久留米大）

28. 抗デスモコリン3抗体陽性天疱瘡の1例

○山本麻友香<やまもと まゆか>、加藤威、山本文平、藤本徳毅（滋賀医大）、古賀浩嗣、石井文人（久留米大）

29. 水疱性類天疱瘡と粘膜優位型尋常性天疱瘡を合併した1例

○吉田憲司<よしだ けんじ>、今井杏里、栗田昂幸、橋本由起（東邦大）、兼古晃輔（同口腔外科）、石井 健（東京歯科大市川）、石河 晃（東邦大）

謝 辞

第 44 回水疱症研究会の開催運営にあたり、格別な御援助を賜りました。ここに謹んで御礼申し上げます。

第 44 回水疱症研究会 会長 石河 晃

セミナー共催企業

武田薬品工業株式会社

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

メンリッケヘルスケア株式会社

一般社団法人 日本血液製剤機構

広告掲載企業

アッヴィ合同会社

アムジェン株式会社

株式会社ミノファーゲン製薬

株式会社栗原医療器械店

協和キリン株式会社

サノフィ株式会社

田辺三菱製薬株式会社

中外製薬株式会社

鳥居薬品株式会社

ノバルティスファーマ株式会社

マルホ株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

ユーシービージャパン株式会社

(50 音順 敬称略)

寄 附

東邦大学皮膚科同門会

会場へのアクセス



大田区産業プラザ PIO コンベンションホール

〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20

TEL : 03-3733-6600

- 京浜急行線、空港線「京急蒲田駅」東口から徒歩約3分
- JR京浜東北線、東急多摩川線、池上線「蒲田駅」東口から徒歩約13分